

組織名	公益財団法人 荒川区自治総合研究所
-----	-------------------

## 1 組織概要

所在地	〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目11番1号
TEL	03-3802-4861
FAX	03-3802-2592
URL	http://rilac.or.jp/
e-mail	info@rilac.or.jp
設立	2009年10月1日
設置都市等	東京都荒川区
代表者	西川太一郎(理事長・荒川区長)

## 2 組織動向

(1) 沿革	
設置経緯	<p>○2007年3月策定の「荒川区基本構想」で掲げられている荒川区の将来像である「幸福実感都市 あらかわ」を実現するため、政策形成力の一層の向上を目的とし、2007年度から自治体シンクタンクの設立について検討を開始した。</p> <p>○2009年4月から、シンクタンク設立準備担当を配置し、10月に一般財団法人として設立した。</p> <p>○2011年8月から、公益財団法人となった。</p>
見直しの動向	—
役割(2016年時点)	荒川区が基礎自治体として政策形成力の向上及び質の高い区民サービスの提供を図るために、区が抱える課題等について多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に対して政策提言等を行うことにより、地域社会の健全な発展に寄与する。
(2) 組織体制	
設置形態(択一)	<input type="radio"/> 1 自治体の内部組織 <input type="radio"/> 2 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input checked="" type="radio"/> 3 公益法人(財団法人・社団法人) <input type="radio"/> 4 大学の附置機関 <input type="radio"/> 5 広域連合 <input type="radio"/> 6 その他(具体的に: )
常勤職員数	5人
うち常勤研究員数	3人
非常勤研究員数	2人
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 専門的な知識を有した研究員の採用 <input checked="" type="checkbox"/> 2 外部有識者の活用(1を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 3 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 4 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 5 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 6 その他(具体的に: ) <input type="checkbox"/> 7 特に行っていない
庶務体制	庶務専従者(非常勤職員)が対応
市民参加、外部連携	

(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2016年度予算	9,177 千円	
2015年度決算	3,513 千円	
2014年度決算	6,590 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	1. 補助金等収入
	2位	2. 基本財産運用収入
	3位	
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

### 3 活動動向

(1)活動実績		
	調査研究名 (国の法令により義務づけられている調査で、自治体の政策の形成や問題の解決のために活用しないものは除く)	調査研究の概要 (研究成果を閲覧できる機関(国会図書館等)やURLがある場合は末尾に記入)
2016年度に実施した調査研究 (1件につき1行で記入してください。)	荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハピネス:GAH)に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて、荒川区民総幸福度(以下「GAH」という。)に関する調査研究を行った。GAHの研究については、荒川区民の幸福度を測る指標化の側面と、区民をはじめ荒川区に関わるすべての人や団体等が幸福について共に考え、地域の幸福のための活動につなげていく運動の側面を踏まえ取り組んだ。</li> <li>区民の幸福実感を調べるため、「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の6つの分野のGAH指標を用いた第4回目の区民アンケート調査(以下「GAH調査」という。)を実施し、その調査結果について分析を行った。</li> <li>さらに、行政評価へのGAH指標の活用方法やGAH調査結果による施策の改善等といった、GAHの活用の方向性について、保育士、建築職、土木職など様々な経験と知識を持つ区職員及び研究所職員で構成されるワーキング・グループなどで検討した。</li> </ul>
	地域力に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動への参加者を増やし、地域を活性化させるためボランティア活動に焦点を当てた調査研究を行った。</li> <li>区民の地域活動や社会貢献への参加に焦点を置き、検討を進めた。</li> <li>具体的には、地域活動・社会貢献活動等への参加の背景や動機及び参加行動を促進する要因等を把握するため、区民や関係機関を対象に25年度に行ったヒアリング調査を基に、研究を進めた。</li> <li>研究にあたっては、地域活動・社会貢献活動等への参加に結びつけるコーディネートの重要性などについて、関連する組織と情報や意見交換を行った。</li> </ul>
	自然体験を通じた子どもの健全育成研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健全育成という観点から自然体験の有用性を検証するとともに、荒川区の次代を担う子ども達の自然体験をより効果的・効率的に実施していくための方策などについて提言するため、調査研究を行う。</li> <li>子どもの健全な成長における自然体験の効果について、先行研究や文献サーベイによる調査を行い、論証した。</li> <li>荒川区における子どもの自然体験に関する既存の取り組みを、事業の実施主体と体験プログラム内容により整理、分類した。区の自然体験事業に携わる関係団体にインタビューを実施し、具体的な事例を把握した。</li> <li>大人の意識向上と身近な自然体験の重要性を指摘し、施策の方向性を示した。</li> <li>URL: <a href="http://rilac.or.jp">http://rilac.or.jp</a></li> </ul>
過去3年間の研究実績 (成果物ベース)	<p>&lt;2015年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『自然体験を通じた子どもの健全育成研究プロジェクト中間レポート』</li> <li>○『CSと職員のモチベーションに関する研究プロジェクト報告書』</li> <li>○『荒川区民総幸福度(GAH)レポートVol.2』</li> </ul> <p>&lt;2014年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『親なき後の支援に関する研究プロジェクト報告書』</li> <li>○『荒川区民総幸福度(GAH)レポート』</li> </ul> <p>&lt;2013年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○『荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査集計結果』</li> </ul>	
定期刊行物	<ul style="list-style-type: none"> <li>ORILAC NEWS(年3回程度)</li> <li>OGAH NEWS(年6回程度)</li> </ul>	

(2) 活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 1 設置市からの要請 <input type="checkbox"/> 2 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 3 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input type="checkbox"/> 4 貴団体・組織で自ら発案(3を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 5 その他(具体的に: 荒川区と研究所の協議により決定)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 2 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 3 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 4 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 5 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニュースレター等で周知する <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他(具体的に: プロジェクトに関連する書籍の発行を行う。プロジェクトに関連する講演会やシンポジウム等を開催する。) <input type="checkbox"/> 7 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input type="checkbox"/> 2 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input type="checkbox"/> 3 外部有識者から評価を受けている(2を除く) <input type="checkbox"/> 4 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> 5 その他(具体的に: ) <input type="checkbox"/> 6 特にそういう機会はない

#### 4 特記事項

研究員の業務分担	テーマごとに業務を分担している。
研究員の専門性 育成の手立て	○外部有識者とともに研究を行うことにより調査研究のノウハウ、政策形成能力の向上などを図る。 ○研修等へ派遣する。
研究員のキャリアパス等	専任研究員を庁内公募や人事異動等により配置 例) ・情報システム課 → 総務企画課(研究所設立準備担当) → 当研究所 ・環境課 → 当研究所 → 国保年金課 ・総務企画課 → 大学院派遣 → 当研究所 ・環境課 → 子育て支援課 → 当研究所
その他	—